

## 矢作ダム貯水池総合管理計画検討委員会（第3回）

### 議事概要

日時：平成15年3月25日 10:00～12:19

場所：KKRホテル名古屋 4階 「福寿」

1. 第2回委員会の議事概要等の報告
2. 第3回委員会資料の説明
3. 議事概要

#### フローチャートについて

- ・委員会の検討課題についてフローチャートで整理された。委員会で改良していく。
- ・フローチャートから大きく三つに分類出来る。

#### 自然環境対策

ダム貯水池の濁水・冷水・維持流量対策

ダム貯水池の堆積土砂対策

#### 貯砂ダムについて

- ・貯砂ダムの嵩上げは、洪水調節容量を確保し、下流の治水安全度を確保することと、貯水池末端の河床を上昇させないことの二つに分けて検討する。

貯水池の富栄養化は今まで問題となっていない。今後の調査結果に基づき説明する。

#### 選択取水設備について

- ・選択取水設備の運用では、ダム流入量が300m<sup>3</sup>/s以上の場合は、6日間は下段放流する。
- ・貯水池の濁度が25ppm以上の場合は下段から出すというルールとなっている。
- ・河川の生き物は、ある一定以上の濁度の場合に影響を受ける。
- ・S62以降は田植えの時期が早くなり4月の連休前後から表面取水の運用としている。
- ・選択取水は「濁度」だけ見ていると誤る場合があるので「水温」も併せて検討項目に入れ濁水の問題として考える。

#### シミュレーションモデルについて

- ・シミュレーションモデルの技術レベルは、モデルの精度の問題と上流端からの境界条件の問題がある。
- ・境界条件の与え方は河道区間と見なされるところまで上流に延ばす。

#### 調査関係

- ・水温、水質の調査は、矢作ダムから出るところと越戸ダム、明治用水で連続的に調査すれば良い。
- ・調査項目は、濁度、水温以外の項目でBOD、COD、T-N、T-P、付着藻類である。
- ・データだけを並べるので無く、お互いの量の相関、藻類では強熱減量とクロロフィルとの関連の検討をする。

#### 濁水の原因

- ・無機物のものは調査されているが、有機物としての由来を調べる。
- ・水質環境の変化により、藻類が珪藻から緑藻に変化するとアユのエサ環境に影響する。
- ・濁度・水温が矢作ダム下流に与える影響について、発電ダム放流を含め調査すること。